

Angin



～ 風 ～

令和5年2月28日



CJS 校長室便り N010

校長 茂泉 和浩

授業参観・懇談会ありがとうございました

先週、二日間にわたって行われた授業参観・懇談会はいかがだったでしょうか。コロナの影響もあり、学校に来てお子様の授業の様子を見るのが少なかつただけに、授業に真剣に取り組むお子様の表情を見られたことは貴重な機会になったことと思います。「お家の人が授業を見に来る。」ということは、子供たちの大きな励みになります。いつもより手を挙げて発表したり、大きな声で歌を歌ったり、姿勢を良くしたりします。それは子供たちが自分の頑張りを見てほしい、自分を認めてほしいと言う気持ちの表れです。家でテレビを見ている顔、近所の方とお話をする顔、お父さん・お母さんと話をする顔、そして授業参観で見せる顔。子供たちはたくさんの顔を持っており、それら全てが子供たちの真の顔です。私も親として、子供たちがどういう場面でどういう顔を見せるのか興味がありました。学校で見る我が子は、家で見せるそれとは全く違うこともありました。お家に帰ってから、授業参観の様子が家族で話題になっていけばいいなと思いました。「手をたくさん挙げていたね。」「ノートに丁寧に書いていたね。」「友達と相談して答えを見つけていたね。」など、何でもいいのです。子供たちは自分を見てくれたこと、認めてくれたことに大きな喜びを感じ、自信を持ちます。普段から意識してお子さんの頑張りを言葉にしてほしいと思います。お家の方の話を聞いているときのお子さんは、きっと喜びと安心の顔(表情)をしているのではないかと思います。

卒業式に向けて

「日本では、始まりと終わりをとても大切にしています。」という言葉、始業式や終業式で何度か子供たちに話をしてきました。区切りを付けるということは、これまでの自分を振り返ることであり、新しい一歩を踏み出すことです。小学校や中学校というまとまりで考えた場合、それは入学式と卒業式です。CJSに通う子供たちは、入学式と卒業式どちらもCJSで迎えられる子供たちは少ないはずですが、ですから、なおさら思い出に残る式になればと思っています。海外での生活は、子供たちにとって得るものがたくさんあったはずですが、大変さもあったと思います。そういったCJSでの生活を振り返り、自分の成長を確かめ、新しい一歩を踏み出してほしいです。思い出に残る卒業式になるよう、準備は進んでいます。

